

NTTドコモ イラスト待受&ラブストーリー集 『100シーンの恋』 プレスリリース

携帯コンテンツプロバイダーの株式会社ボルテージは、
NTTドコモ「iモード/iアプリ」のメニューとして、
恋愛イラスト待受サイト 『100シーンの恋』を、2003年7月7日(月)よりサービス開始します。

100シーンの恋

“甘くせつない恋”を描いた、イラスト待受♥



和可



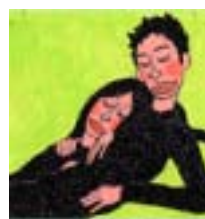
ワキサカコウジ



イツコアヤノ



naho ogawa



北島 志織



藪 万由美

コンテンツ概要

「non-no」「My Birthday」など、10~20代の女の子に人気のファッション誌で活躍中のイラストレーター30名が描く『イラスト待受&ラブストーリー集』です。
“甘く切ない恋”を描いた1000文字のラブストーリー800話も楽しめる、恋する女の子にピッタリのコンテンツです。

主なメニュー

イラスト待受

800枚のイラスト画像。ストーリーに合わせ、“恋”をテーマにした描き下ろしイラスト。

恋愛ストーリー

“甘くせつない恋”を描いた、1000文字のラブストーリー800話。
携帯で読みやすいよう、セリフ中心に書かれているので、メールのようにスラスラ読めます。

ラブ ペア待受

1つのイラストが2つに分かれて、ペアで使える新感覚の待受です。

イニシャル待受

気に入ったイラストに好きな言葉が入られます。彼と自分の名前を入れてもOK、プレゼントもできます。

恋占い

恋愛状況・年代・星座から占う、その人にピッタリ合った毎日の恋愛運。

Flash™ストーリー (505i専用)

Flashを用いたコーナー、イラストとストーリーが同時に楽しめます。

配信概要

NTTドコモ「iモード」 月額300円(税別)

【アクセス方法】 「メニュー」 「待受画面/iアプリ待受/フレーム」 「アート」
【WEBサイト】 <http://www.voltage.co.jp/ssstory/lovers/index.html>

コピーライト表記

© 2003 ボルテージ

*「iモード」「iアプリ/アイアプリ」は、NTTドコモの登録商標です。

*MacromediaおよびFlashは、Macromedia,Inc.の米国および

その他の国における商標または登録商標です。

提供元

株式会社ボルテージ <http://www.voltage.co.jp/>

「恋愛」と「戦い」をテーマに、感動あるコンテンツ作りを目指す携帯向けコンテンツプロバイダー。
メッセージ待受、おしゃべり掲示板、ショート集、ネット対戦ほか、各種の公式コンテンツを配信中。

本社:東京都渋谷区 代表取締役:津谷祐司 TEL:03-5464-1471 FAX:03-5464-1472
広報担当:安藤・中川 pr@voltage.co.jp

○○さんへの
今日のオスガ

恋の進化論

人気コーナー

- ◆特集:告白大作戦
- ◆恋の進化論
- ◆明日の恋占い
- ◆お友達プレゼント
- ◆テイストから選ぶ
- ◆キュート
- ◆クール
- ◆ポップ
- ◆エレガント
- ◆ナチュラル

イラスト検索

- ◆テーマで選ぶ
- ◆色で選ぶ
- ◆絵柄で選ぶ

いろいろな遊び

- ◆ラブペア待受
- ◆おしゃべり
- ◆Flashメール(505i)
- ◆MYアルバム

恋ストーリーを楽しむ

- ◆ストーリーブック
- ◆ストーリー検索
- ◆みんなのストーリー
- ◆MYストーリーBOX
- ◆メール精選

☆検索結果☆
逸距離恋愛

逸距離恋愛中のあなたへ
『今年初めての雪』

彼と離れてしまうあなたへ
『見逃しの日』

夫と離れて暮らすあなたへ
『笑顔で会いたい』

恋人と上手くいかないあなたへ
『恋と戦え』

NEXT

『100シーンの恋』 ビジュアル素材

イラスト待受サンプル

下のサンプルを誌面に掲載される場合は、別途、ご請求ください。画像ファイルをメールで添付いたします。



Cozy tomato



ケイコモス



大森とこ



柴崎マイ



オオチリスミコ



平松昭子



MINK



小迎 裕美子



miki.itou



大西Q



TAKAKO



ヒジカタ クミ

ストーリーサンプル

元気になりたいあなたへ

「YOU」

「……誰？」
「驚かせてごめん」
「……どこにいるの？」
「初めまして」
「どこ？ あなたは、誰？」
「僕は…君が将来出会う大切な人間…らしい」
「……ハ？」
「君、さっき神様にお願いしたでしょ、助けてほしいって」
「……したけど」
「僕は、神様にいざなわれたんだ。僕の将来出会う人が今、苦しんでいるって聞かされた……だから、ここに来たんだ」
「どこにいるのよ。見えないわ」

「僕にも、君の姿は見えないんだ。声しか聞こえない」
「おとぎ話の世界に、迷い込んだってこと？」
「かもしれない…でも、僕らは将来、どこかで出会うんだよ。大切な存在として」
「どんな？」
「それは、わからない。友達なのか、恋人なのか、それとも結婚相手なのか…いつ、どこで、どんなふうに出会うのかもわからない。未来のことは、神様以外にはわからないから」
「……それで、何？ あなたは私のことを助けてくれるの？」
「助けたいと、思ってる」
「なら、今すぐ私の前に現れて、私のこと助けてよ」
「それは、出来ないよ。僕らは今じゃなく、将来出会うんだから」

「それじゃ意味ないよ！ 私は、今の私を救ってほしいの！」
「……私は、大好きだった彼を失ったの。彼は私のすべてだった……私はもう、ダメ。疲れちゃったよ。いっそ消えてしまいたいよ」
「ダメだよ!!」
「そんなことは、僕が許さないよ！」
「何も出来ないあなたに、そんなこと言う資格でもあるの？」
「あるよ！ 私は、君が将来出会う大切な人間なんだよ。君にとって僕は大切な人間。なら僕にとっても君は大切な人なんだよ！」
「……」
「だから僕と出会うまでは、消えたりなんかしないでくれ」
「……」

「僕らはいつか必ず、かけがえのない人と出会えるんだよ。それがいつなのか、どこでなのか、わからない。それが一体誰なのか、わからない。でも僕らは必ず、かけがえのない人と出会えるんだよ」
「……」
「……もう、行かなくちゃいけないみたいだ」
「……」
「じゃ、いつか必ず、どこかで会おうね」
「……」
「……」
「……ねえ、まだいる？」
「……うん。いるよ」
「……今私、神様にお願いしたよ。早くあなたと出会えますようにって」
「……なら、僕も同じことお願いしなきゃね」

END